

特定非営利活動法人 移動支援 Rera

2014 年度 事業報告書

2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日



特定非営利活動法人移動支援 Rera 定款第 3 条

この法人は、移動困難な住民に対して、送迎活動等のサポート事業を行うことにより、生活する上で必要不可欠な移動手段を確保し、彼らの健全な生活の維持に寄与することを目的とする。

事業報告

I. 移動困難な住民の送迎支援活動

震災直後より一貫して行ってきた、自力での移動手段を持たない移動困難者の送迎支援活動。

1. 活動概要

- ◆ 車両 9 台（4 台所有、5 台借用）を使用した移動困難な住民の送迎支援
- ◆ 対象者…公共交通による移動が困難で、家族などが送迎できず、経済的に余裕がない住民など。
- ◆ 送迎範囲…石巻市・東松島市・女川町の住民。送迎対象者の利用上限は基本的に週 2 回まで。
- ◆ 送迎形態…道路運送法上「登録を要さない」無償の範囲内として、送迎にかかる実費分、3 km ごとに 100 円（4 月～7 月）、2km ごとに 100 円（8 月以降）を『協力費』として利用者をお願いした。（ガソリン価格上昇のため 8 月より金額変更）
- ◆ 利用希望者は『同意書』『申告書』に状況を記入し、団体へ提出。団体は名簿で管理。

送迎案内ちらし、利用者同意書

移動支援 Rera NPO 法人 移動支援 Rera(レラ)

公共交通で移動できない方のためのボランティア送迎

(0225) 98-5931 (予約制)

◇利用の条件:

- ・ 障害や高齢などの理由で、バスなどの公共交通を使うのが難しい方
- ・ 交通の不便な場所にお住まいで、利用できる交通機関のない方
- ・ 家族や知人が送迎することができず、経済的に大変な方
- ・ 車いす、ストレッチャー対応の福祉車両もあります。

◇「申告書」・「同意書」の記入をお願いします。

◇利用できる回数：それぞれの事情によって変わります。
※ 困っている方がたくさんいます。ゆずり合いにご協力をお願いします。

◇協力費（ガソリン代） ※2014 年 8 月より変わりました！
2キロにつき 100 円ずつの協力費をお願いします。

◇送迎範囲：石巻市、東松島市、女川町

◇送迎・受付時間： 月～金：午前 8 時～午後 5 時(受付 4 時半)
土・祝：午前 8 時～午後 1 時(受付 12 時)
日：休み
そのほか、年末年始やお盆などはご確認ください

※ お困りの方は、まずはご相談ください！

■ 必ず前もってお電話下さい。2 週間先までの予約ができます。
■ 初めての電話の時には、詳しい状況を説明下さい。
■ 家族が乗せてくれる時、バスが使える時は、そちらを優先して下さい。
■ 乗り合いとなる場合があります。
■ おたがいの思いやりを持ったご利用をお願いします。

2014/8/1～ 特定非営利活動法人 移動支援 Rera

特定非営利活動法人 移動支援 Rera(レラ)
送迎利用者同意書

(1) 移動支援 Rera(レラ)は、助け合いの気持ちにもとづいた送迎をおこなっています。お互いの思いやりと気づかいを大切にしてください。

(2) 送迎を希望する人には、以下の約束を守っていただき、お互いに気持ち良く送迎が行えるようにお願いします。

- ・ 前もって予約の電話を入れて下さい。(前日～2 週間先まで。)
- ・ やむを得ない場合をのぞき、現場でのキャンセルや行き先の変更はおやめ下さい。(状況によって、必要としたガソリン代をいただくことがあります。)
- ・ 利用できる回数など、Rera が定めた決まりを守った利用をお願いします。
- ・ 傳りのお迎えは、必ず準備ができてから連絡してください。お迎えに行ったときに会計待ちなどだった場合、お待ちできない場合があります。

(3) 利用できる人にはさまざまな条件があります。なぜレラによる送迎が必要なのかを必ずしっかりと伝えて下さい。

- ・ 目的地まで、自分でバスなどの公共交通で行ける場合は、送迎できません。
- ・ 家族や知り合いに送ってもらえる場合は、送迎できません。

(4) 送迎の都合上、ほかの人と乗り合いになることがあります。

- ・ さまざまな障害などを持った方がいます。お互いの気配りをお願いします。
- ・ 乗り合いの状況によっては自分の目的地までのルートが通回りになります。

(5) 天候等の状況によって多少お迎え時間がずれたり、送迎ができない場合があります。

(6) 運転手は安全運転に努めますが、送迎中に万が一事故が起きた場合などは、NPO 保険ならびに送迎車両の自動車保険の範囲内で対応します。保険契約の免責事項に該当する場合や補償限度額を超える事故の場合の対応はお受けできません。

(7) 送迎中に病状の急変等があっても、移動支援 Rera は責任を負いません。また、体調のすぐれない場合、留意事項のある場合などは必ずお知らせ願います。

(8) 万が一不慮の事故等が起こった場合、その責任を移動支援 Rera やスタッフ個人に追及することはできません。

以上の内容に同意します。 年 月 日

住所 _____

ご本人署名 _____

★ ご家族・支援者の署名(続柄) _____

③/⑤

送迎利用者状況申告書（両面）

おもて

移動支援 Rera
送迎利用者 状況申告書（両面）

※申告書の内容は移動支援 Rera での活動以外に使用しません。統計資料とする場合がありますが、人物が特定できる形で情報公開はしません。また、生命や健康に重大に関わる場合を除き、個人情報として団体の外に提供することはありません。

記入日	年 月 日
住所	
電話番号	
電話番号（携帯）	
氏名（年齢）	（ 歳 ）
家族氏名（続柄）	（続柄： ）

あてはまる事柄 全てにチェックを入れ、必ず内容を書き込んで下さい。

1. 心身の状況 （問題ある ・ 問題なし）

チェック

要支援	支援度と内容：
要介護	介護度：
障害	等級： 内容：
病気・怪我あり	具体的に：
長距離が歩けない	具体的に：
段差が登れない	具体的に：
医療用器具・装具等を身につけている	具体的に：
その他	具体的に：

レ記入欄

うら

2. 交通機関の利用困難要素：（ある ・ なし）

チェック

車を持った家族がいない	説明：
家族が送迎できない	理由：
バス停までが遠い	バス停までの距離： 歩いて 分くらい
バスの時間が合わない	待ち時間： 時間くらい
バスの路線が合わない	具体的に：
乗り換え時間が長い	待ち時間： 時間くらい
その他	具体的に：

レ記入欄

3. 金銭面での困難要素：（ある ・ なし）

チェック

家族の援助を受けている	（ はい：続柄 ・ いいえ ）
年金を受給している	
生活保護を受給している	
タクシー代を払うことが困難	理由：
その他、経済的な問題がある	具体的に：
その他	具体的に：

レ記入欄

※実際と異なる内容を入力した場合、ご利用できなくなることがあります。

その他連絡事項：

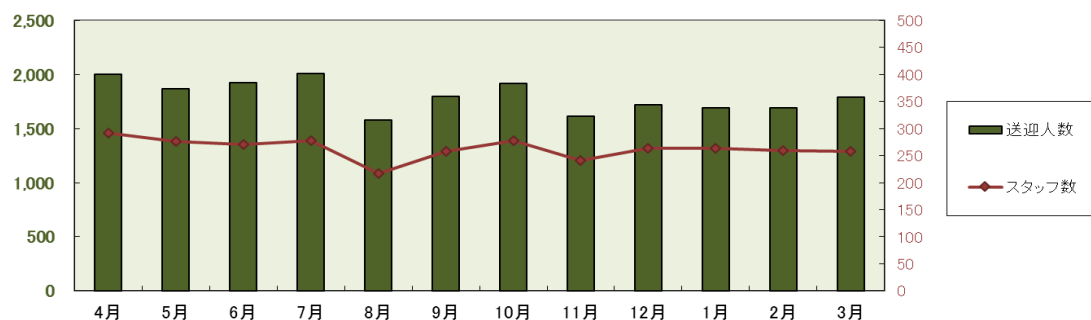
◇ 2014 年度内新規利用登録者数…178 名（相談・登録後未利用者も含む）

◇ 申告書記入者数（2013 年 10 月開始～2015 年 3 月末）…476 名

送迎実績

◆ 年間で 21,602 名（月平均 1,800 名）と、ほぼ安定した送迎を年間通して実施。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	日平均
送迎人数	2,002	1,865	1,923	2,010	1,576	1,799	1,920	1,611	1,719	1,691	1,693	1,793	21,602	1,800	79
送迎回数	1,570	1,466	1,526	1,589	1,264	1,460	1,520	1,298	1,363	1,380	1,376	1,455	17,267	1,439	63
スタッフ数	292	276	271	278	217	258	278	241	263	263	259	258	3,154	263	12



- ◇ 仮設住宅の集約や本格的な復興住宅の整備等、住環境の大きな変化が想定された 2014 年度であったが、住宅の建設は大幅に遅れ、仮設住宅も集約できるほどの人口減少がなく、個別の引っ越しが中心で大きな変化のない「忍耐」の 1 年間となった。復興住宅の引っ越しは年度の終盤に増え始めたが、送迎全体の 1 割に満たない程度であった。
- ◇ 年間通して、送迎できる限界人数を依頼の件数が上回り、毎日数件の断りをしなくてはならない状況が続いていた。
- ◇ 人工透析、抗がん治療等、回数も多く重要な通院送迎の依頼が多くあった。送迎の限界量を超え、受けられないケースもしばしばあった。
- ◇ 利用者を個別に見直し、利用できる回数等を設定する計画でチームを作り活動。「移動困難者」を団体内部のみで判断し線引きすることは非常に難しく、次年度に持ち越しの課題となった。

《実施期間》

2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日（事業期間内の全日）のうち、日曜、元日を除く毎日。
（年末年始やお盆等、病院が休みの期間は一部透析送迎のみ。）

2. 送迎利用者への調査票配布による移動困難者データ

NPO 法人地星社が中心となり、Rera の送迎利用者へ移動困難者アンケート調査を行った。

レラ移動支援利用者調査票 平成 27 年 1 月～2 月

石巻での今後の移動支援を計画するため、記入のご協力をお願いします（無記名）。

※ ひとり 1 枚です。自分で書くのがむずかしい場合は、家族やレラのスタッフに書いてもらってもかまいません。 提出：3 月 3 日（火）まで

質問 1 ご自身について

ア. 年齢 ①40 代以下 ②50 代 ③60 代 ④70 代 ⑤80 代 ⑥90 代以上
イ. 性別 ①男性 ②女性

質問 2 健康の状況について

ア. 現在、かかっている病気がありますか？
①ある（どんな病気ですか？） ②ない

イ. 先月は病院にだいたい何日くらい通いましたか？（ ）日

ウ. 障害の認定を受けている場合、種類を選び、級についてご記入ください。
①受けていない ②身体障害 ③知的障害 ④精神障害（ ）級

エ. 介護の認定を受けている場合、当てはまる種類を選び、数字をご記入ください。
①受けていない ②要支援 ③要介護

オ. その他、健康の状態で不自由なことがあれば書いてください。
（ ）

質問 3 経済状況について

ア. 世帯の過去 1 年間の収入はだいたいどのくらいですか？（ ）万円
または、世帯の先月の収入はだいたいどのくらいですか？（ ）万円

イ. 現在、生活保護を受けていますか？ ①受けている ②受けていない

ウ. 先月の病院代・薬代はだいたいどのくらいですか？（ ）万 （ ）千円

エ. その他、経済状況について困っていることがあれば書いてください。
（ ）

質問 4 住まいの状況について

ア. 現在のお住まいはどれにあたりますか？
①フレハブ仮設住宅 ②みなし仮設住宅 ③復興公営住宅 ④持ち家
⑤民間の賃貸住宅 ⑥市営住宅・県営住宅など ⑦その他（ ）

イ. 震災前のお住まいはどれにあたりますか？
①今と同じ家（持ち家・アパート・その他）
②今とちがう家（持ち家・アパート・その他）

ウ. その他、住まいの状況について困っていることがあれば書いてください。
（ ）

質問 5 家族の状況について

ア. 震災前と現在で、同居している家族は、自分を含めて全員で何人ですか？
震災前：（ ）人 現在：（ ）人

イ. 現在、自分と同居している家族で当てはまるものすべてに○をつけてください。
①夫もしくは妻 ②息子もしくは娘 ③妹もしくは姉 ④孫 ⑤兄弟姉妹
⑥父もしくは母 ⑦その他（ ）

ウ. 震災前に自分と同居していた家族で当てはまるものすべてに○をつけてください。
①夫もしくは妻 ②息子もしくは娘 ③妹もしくは姉 ④孫 ⑤兄弟姉妹
⑥父もしくは母 ⑦その他（ ）

エ. 出かけるときに、家族の助けがなくなると困ることは、震災前に比べて増えましたか？
①増えた ②あまり変わらない ③減った

質問 6 交通の利用状況について

ア. 以下の交通手段について、ひと月に何回くらい利用していますか？
(1) 家族の車（ ）回 (2) 家族以外の車（ ）回
(3) バス・乗り合いタクシー（ ）回 (4) タクシー（ ）回
(5) レラの送迎（ ）回

イ. レラの利用は、今の回数で足りていますか？
①足りている ②足りていない（月にあと 回くらい必要）

ウ. レラの利用で、予約が取れないことはありますか？
①ある（月に 回くらい） ②ない

その他、移動や外出について困っていることがあれば、裏面にお書きください。 ➡

調査の目的と概要

関係機関での議論・連携を進める基礎データを得ることを目的に、移動困難者の状況調査を実施しました。

調査の経緯と目的

東日本震災による被害の大きかった沿岸被災地では、交通環境の悪化により多くの移動困難者が出た。震災から4年となる現在でも高齢者を中心に多数の移動困難者がいる。

石巻地域においては、NPO法人移動支援Rera（震災後当初は移動支援ボランティアRera）が移動支援を行っており、月間延べ1,800人を送迎している。その利用の9割は医療機関への通院であり、移動の問題は命や健康とも密接にかかわる重要なテーマであるが、Reraの送迎は公的な制度によるサービスではなく、今後も継続が保障されているものではない。また、移動困難者の問題は今後被災地以外の地域でも大きな問題となる可能性がある。

そこで、関係機関での議論・連携を進める基礎データを得ることを目的に、移動困難者へのアンケート調査および関係団体へのヒアリングを行った。

アンケート調査について

対象	移動支援Reraの利用者
調査方法	移動支援Reraの送迎サービスを利用時に、ドライバーが利用者に調査票を配布。調査票はドライバーが直接回収するか、返送用封筒で郵送により回収した。筆記が困難な利用者も多いことから、介護者やドライバーによる代理筆記も可とした。
調査期間	2015年2月9日（月）～3月6日（金）
有効回答数	180票（配布数 250票、回収数 183票、無効回答数 3票、回収率 73.2%、有効回答率 72.0%）
実施主体	特定非営利活動法人地星社
協力	特定非営利活動法人移動支援Rera、日田剛（九州保健福祉大学社会福祉学部臨床福祉学科 助教）

ヒアリングについて

今回の報告書に直接的には反映できなかったが、以下の石巻市内の各団体から移動困難者の状況や、支援団体等について伺った。

2014年10月21日	一般社団法人日本カーシェアリング協会、一般社団法人キャンナス東北
2014年12月26日	特定非営利活動法人移動支援Rera
2015年3月19日	寄らいん牡鹿（牡鹿地区の地域住民による生活支援団体）

調査結果の要約

高齢者の1人もしくは2人世帯が、家族の支援を得られず、健康の悪化から移動困難者になっている様子が浮かび上がってきました。

対象者の属性

70代が30パーセント、80代が36パーセントで、ほとんどが高齢者です。また、女性の割合が多くなっています。

健康の状況

9割以上は持病があります。持病がない人はいずれも身体障害の認定を受けていました。身体障害の認定を受けている人が41パーセント。介護認定は、受けていないか比較的軽度の人が多くなっています。

経済状況

生活保護の受給率は19パーセントで、石巻市の生活保護率9.64パーミルの約20倍です。生活保護の受給率が高いのは、年代では50代、家族数では1人の場合です。

住まいの状況

震災前の住まいが今と違う人は51パーセントと、ほぼ半数にのぼっています。仮設住宅、復興公営住宅に入居している人の56パーセントが、震災前は持ち家に住んでいました。

家族の状況

63パーセントの人は震災前と比べて家族数が変わって少なく、20パーセントで家族数が減少しています。

70代、80代の1人暮らし、2人暮らしが移動困難者全体の半数を占めています。

交通の利用状況

家族の車や家族以外の車、バス・乗合タクシーよりも、タクシーの利用が多くなっています。

レアの送迎を利用するのは月4回以下が75パーセントを占めます。人工透析等で10回以上利用する人も一定数います。

自由回答から

レアの送迎で通院は助かっているが、買い物などの外出は我慢したり、あきらめているという声がありました。

Ⅱ. 福祉有償運送・介護保険事業・交通政策関係の取り組み

制度についての学習、自治体に向けた提案

【石巻協働事業研修会を活用した石巻市への働きかけ】

NPO 法人石巻復興支援ネットワーク主催による『石巻協働事業研修会』（2014 年 7 月～9 月）に参加。講師の川北秀人氏（IIHOE 人と組織と地球のための国際研究所）と共に、石巻市へ 3 つの協働提案を行った。

1. 自家用有償運送の事務権限の自治体への移譲と関連した、送迎利用者の範囲拡大に関して。

これまで、実質的に要介護者・認定を受けた障害者以外を送迎対象者とすることが難しいとされていた自家用有償運送であったが、「市町村長の認める移動困難者」を送迎の対象とすることが可能となる方向性が示された。

→当団体の送迎する移動困難者と基準を合わせることができないか、具体的相談を行う場を持つことの提案。

2. 介護予防・日常生活支援総合事業の改正に関して。

新たに分類された日常生活支援総合事業において、要支援者や要支援認定を受ける以前の介護予防者のための新たなサービスのひとつに「移動支援」という項目が創設された。

→当団体利用者の多くは要支援者および認定を受けていない体調不良者であるため、この新たな制度を活用した協働体制の可能性についてを話し合う場を持つことの提案。

3. まちづくりと公共交通に関して。

地域公共交通活性化再生法の一部が改正された。これにより、多様な交通手段を「面」で捉えて網的な充実を図るということ、自家用有償運送も「公共交通」の一つとして交通網に組み込まれることが明記された。

→当団体による送迎を現在利用している、様々な移動困難要素を持つ住民の移動について考慮した復興まちづくりを話し合う場を持つことの提案。

《実施期間》

7 月：石巻市福祉総務課にヒアリング。提案作成。

8 月：石巻市長と面会。

9 月：公開事業提案会の開催。協働提案を行った。



<http://yappesu.jp/news/2014/08/8598/>

関係省庁への要望提出

JCN を通した、東日本大震災支援 NPO 団体と政府関係省庁との定期協議に向け、当団体として要望書を作成、提出した。会議は次年度の開催に延期となったが、提出した要望に関しては次回会議にて協議される予定。

【要望内容】

1. 交通政策基本法、改正地域公共交通活性化再生法、自家用有償運送に係る道路運送法改正事項等を活用した被災地域でのまちづくりと交通への、NPO／地域住民の参入・協働のための積極的な手引きと被災状況を考慮した通達事項の追加。
2. 被災地域のまちづくりと一体化した、NPO／地域住民と行政の連携による安定的な交通弱者対策のための予算投入、ノウハウ・人材育成。

《実施期間》

12 月 1 日：JCN 定期協議のための関係省庁宛て要望書作成、提出。

(2015 年 5 月：定期協議開催予定)

Ⅲ. ネットワーク形成

【石巻移動支援ネットワーク形成】

被災地域における移動困難者対策に取り組む団体、およびその支援を行う団体や個人によるネットワークを設立。メーリングリストを活用し、連携して移動支援の問題解決に向けて取り組む。

◆ メーリングリスト構成メンバー

全国移動サービスネットワーク、JCN、みやぎ連携復興センター、地星社、DPI 日本会議、日本カーシェアリング協会、日田剛（九州保健福祉大学）、移動支援 Rera

◆ ネットワークの活用による取り組み

- ・ 定期協議のための要望書作成
- ・ 現地の移動支援団体の共同調査
- ・ 透析病院への訪問
- ・ 制度についての学習 等



- ◇ 専門知識を持つ全国組織、中間支援組織等、被災地外に拠点を持つ支援者から助言を受けて活動を深める良き土台となり、移動問題への幅広い取り組みに役立たせることができた。

IV. 福祉送迎講習会

当団体主催による福祉送迎講習会を年 2 回開催し、福祉送迎の専門知識を学ぶ場を提供した。講師として、NPO 法人ホップ障害者地域生活支援センターに 2 度とも依頼。当団体スタッフは講師手伝い、および講習会運営・進行全般を行った。

【第 1 回講習会】

2014 年 11 月 1 日、2 日（2 日間）

国土交通大臣認定資格を取得できる 2 日間の講習。参加者 31 名。

【第 2 回講習会】

2015 年 3 月 21 日（1 日間）

運転、介助、安全管理等の実技を中心とした講習、参加者 16 名。

- ◆ 受講対象者…石巻地域の一般住民、福祉事業所の職員、ボランティア希望者、学生など



- ◇ 宮城県震災復興担い手等支援事業、日本 NPO センター現地 NPO 応援基金の助成を受け、通常よりも安価な受講料で開催することができた。講師を引き受けて下さったホップにも多大な協力をいただいた。
- ◇ 第 1 回講習会は参加希望者が定員を超える人気で、真剣に受講する姿が印象的だった。
- ◇ 第 2 回講習会は直前の日程調整等があったため広報が足りず参加者が少なめだったが、岩手県で送迎支援を行う団体からの参加者がいるなど、熱意ある受講生が揃っていた。

- ◇ ホップからの講師陣による講義は非常に質が高く、講習終了後のアンケートの集計結果は満足度の高い回答が多かった。
- ◇ 福祉車両による送迎に特化した講習はあまり受ける機会がないため、実際に送迎を行っている事業所職員のスキルアップ、家族や地域の送迎技術や意識の向上、移動支援の潜在的な担い手の増強にもつながるものとして、今後も続けていきたい。

V. その他の活動

交通案内ウェブページ作成

- ◆ 青い森ウェブ工房の協力により、作成中のバス路線案内ページの情報更新や仕様変更を行った。



路線「03.石巻免許センター線」が経由するバス停一覧
(同一都道府県内のみ表示)

- [石巻駅前バス停](#) (いしのまきえきまえ) (宮城県石巻市錦旗場9)
- [向陽町入口バス停](#) (こうようちょういりぐち) (宮城県石巻市丸戸3丁目3)
- [山下二丁目バス停](#) (やましたにちょうめ) (宮城県石巻市山下町2丁目3)
- [田道町一丁目バス停](#) (たみちちょういつちようめ) (宮城県石巻市清水町1丁目5)
- [石巻運転免許センターバス停](#) (いしのまきうんてんめんきょせんたー) (宮城県東松島市赤井)
- [田道町二丁目バス停](#) (たみちちょうにちょうめ) (宮城県石巻市清水町1丁目11)
- [清水町二丁目バス停](#) (しみずちょうにちょうめ) (宮城県石巻市清水町2丁目3)
- [新橋バス停](#) (しんばし) (宮城県石巻市蛇田)

<http://ishinomaki.buste.in/>

- ◇ 正確な位置情報、スマートフォン対応、時刻表の掲載、震災後の路線対応等を更新。
- ◇ 今後、全体的なデザイン的大幅変更等を含め、多くの人にとって使いやすい形のページに向けて改良を続けていく予定である。

スタッフ自主勉強会

- ◆ 技術の向上や安全、様々な利用者に対応した送迎のための自主勉強会を年 4 回開催した。
- ◆ 送迎の少ない祝日の昼間を活用。テーマに意欲・関心のあるスタッフが毎回自主的に集合。

【第 1 回】 9 月 15 日 テーマ：介助用具を有効利用した移乗・送迎

【第 2 回】 10 月 13 日 テーマ：福祉車両の操作確認など

【第 3 回】 1 月 12 日 テーマ：知的障害者との関わり

【第 4 回】 2 月 11 日 テーマ：視覚障害者のガイドヘルプ



認定 NPO 法人の申請

- ◆ 2014 年度内の認定 NPO 法人取得を目標に申請に向けて取り組んだ。
- ◆ 申請書類は膨大かつ複雑であったが、NPO 法人シーズや NPO 法人 DPI 日本会議、NPO 法人地星社等による書類作成支援を受けて準備を進め、10 月に書類を提出した。



- ◇ 年度内に認定の連絡を受けることはできなかったが、申請書はすべて提出し、実地調査も終了した。2015 年度前半での取得を見込んでいる。
- ◇ 認定の申請を出すことにより、審査に通るだけの NPO 内部の整理、規程類の充実等が必要となり、結果として組織全体の基礎を整えることに大いに貢献できた。たとえば、雇用している従業員の情報や各助成金、団体情報等を見やすくわかりやすくファイルする、安全管理、不正防止の仕組みづくり、等。

VI. 報道、講演、機関誌等掲載など

6月14日	石巻日日新聞	『ガソリン価格高騰 運輸など業界に大打撃』掲載
7月15日	石巻専修大学	『復興ボランティア学』登壇
8月2日	石巻専修大学	『復興ボランティア学』ワークショップ
9月5日	北海道新聞夕刊	『石巻の送迎 道険し』掲載
9月11日	河北新報 石巻かほく	『復興へ協働事業大切』掲載
9月15日	北海道新聞朝刊	『ひと 2014』掲載
12月17日	カリタス女子中高校	クリスマス講演 登壇
2月26日	静岡県社協	移動支援勉強会 登壇
3月1日	TORJA（カナダ雑誌）	震災特集 掲載
3月9日	NTT ドコモ	『震災4年目を迎える被災地の今と課題』セミナー登壇
3月16日	世界防災市民会議	『地域力を支えるコーディネーション』登壇
3月22日	福祉新聞	『被災住民の“足”を守る』掲載
3月30日	関西 STS、ゆめ風基金	『被災地の移動送迎支援活動セミナー』登壇